



五感を研ぎ澄ます 異文化体験ツアー

なぎさ公園小学校
教諭 福島 英子

異文化体験ツアーにける想い

本校教育の「4つの柱」の一つである「グローバル生活人を育てたい」の具体化を図るため、このツアー(6年生対象)が組まれました。今年で4回目となりました。

当初は、小学生の異文化を体験するツアーの視点をどこに置かずか悩み、迷いながら始めました。海外で調べ学習をするのであれば、「語学」という壁がたちはだかり、小学生が容易にできるとは思えません。しかし、本校の子どもたちであれば五感で感じ取って、様々な学びができるのでは...と思いつき、五感に働きかけるプランを考えようと思いました。

まずは、世界には色んな人種がいて、それぞれに違ったすばらし文化、生活様式があることを体験、体感することが大切ではないかと考えました。

そこで、人種、宗教を乗り越えて一つの国で共存共栄する国、シンガポールを選ぶことになったのです。もちろん、安全であり健康面でも細心の注意がいらぬことも大きな要因の一つです。

シンガポールでは、ヒンズー教の寺院、仏教の寺院、そしてイスラム教の寺院が一つの通りに並んで建っているところもあります。他の国では考えられないことです。お互いの違いを尊重しあっているからこそ可能なのではないのでしょうか。そんな環境の中に入って五感をフル稼働させたら、子どもたちの中にきっと何が生まれるはずだと確信しました。

余談になりますが、本校は開校して9年です。これまで何をやるにおいても初めてづくしで、全て手探り、手作りで進めてきました。それは怖くもありますが楽しくもありました。当然、このツアーも私たちのオリジナルです。旅行会社の企画ではありません。

MRT(広島のアストラムラインのような構造で、現地でほとんどの地域を網羅している無人の鉄道)に乗車したり市場を見学したりして目でみて香りを嗅いで、肌に触れ...そんな五感をフルにつかうツアーです。そして、このツアーは人と人の触れ合いや文化を感じる旅です。私たちが心を開き、相手を知ろうとすれば、おのずと上手く行くということ、この企画を通して私自身も学びました。こんなラッキーな経験をさせていただいたことに感謝すると共に、この気持ちを子どもたちとも共有したいと強く思っています。

難題山積のツアー船出

シンガポールの街を知り、人と触れ合うとはいっても、やはり同年代の子どもたちとの交流が主な目的です。しかしながら、交流できそうな学校がなかなか見つかりません。どこもほとんど門前払い状態でした。

大きな理由は、6年生の10月に行われる全国小学校卒業試験により、将来が決定してしまうというシビアな中、交流する時間がもてないということでした。また、学期制度が違うことも二の足を踏む理由だったようでした。シンガポールは新年度が1月からの4学期制なのです。

また、私たちの学校がどんな学校かわからない、それを調べるような時間と余裕はないという状況でした。

数年前までは日本からの修学旅行生は喜んで受け入れられていました。しかし、シンガポール政府の方針で、安易に受け入れないようになったのです。それは、世界での日本の子どもたちの学力成績が落ちてきた今、受け入れる理由がない、ただ遊びに来られても困るというのです。



それ程、日本に対する印象が低下しているのだということ、身をもって知りました。しかし、シンガポール人の友人を通して粘り強く探してもらった結果、本校と教育方針や考え方、立地条件が似ているDe La Salle Schoolという小学校が交流を快く受け入れてくれたのです。そして、シンガポールにある日本人学校のチャング校も交流を受け入れてくれました。



この経緯と共に、一昨年に本校6年生と交流していただいたシンガポールのポリテクニック校の学生さん2人が、チャング空港までわざわざ見送りに来ていただいたことから、国を超えて相手を敬い、大切に想い、心を込めて接することの大切さをより実感しました。

日本人学校チャング校での交流

3年間、訪問させていただく中で、初めは英語の授業に参加させていただくだけでしたが、少しずつ交流時間が延長してきました(初年度は12月の来星で、交流できませんでした)。いよいよ来年は、丸1日交流させていただけることになりそうです。



海外に住む子どもたちにとって、日本に住む子どもたちと交流できるチャンスがほとんどないことから、本校の子どもたちの訪問を楽しみにしてくれているということです。本当にうれしい限りです。本校児童にとっても、明るく積極的で英語が堪能な子どもたちとの交流は、よい意味でのカルチャーショックになっています。

沢山の規制と制約があり、国を挙げて常に整備し続けているガーデンシティと呼ばれるシンガポールで、チャング校では、いかに子どもたちにシンガポー

ルの本来の自然を感じさせるか工夫に次ぐ工夫をされています。

例えば、シンガポール唯一の川から魚を取ってきて水槽で飼育したり、たくさん蝶が繁殖するようにバタフライガーデンをつくったり、野鳥がやってくるように水飲み場を整備するなど努力されています。まさしく五感に働きかける工夫であふれています。もしかすると、植物園などに出かけるよりも多くのことを学べるかもしれません。



De La sale Schoolとの交流

学力重視で、学力の高い子どもは月に1度表彰されるという国の方針を守りつつも、植物園やいわゆる学級園、パイオ栽培場などを備える学校です。そして、中国、台湾、タイの小学校との国際交流を進めています。学校全体で様々な国のよさを学び取ろうとしています。本校児童が訪問すると、日本語のメモを片手に一生懸命コミュニケーションを図ろうとします。そんな姿から本校の子

どもたちは勇気とやる気ももらい、あっという間に語学という壁を乗り越え、分かりあおう、理解しあおうと始めます。大切なのは言葉よりも心であることをどの子も学んでいます。もちろん、言葉の大切さを痛感し、帰国してから英語に対してさらに前向きに取り組むようになっています。

やはり、来年から交流プログラムをふくらませることになりました。

これからの取り組み

これまでのツアーの経験から、来年度は保護者同伴なしで子どもたちと引率教員だけで出かけることになりました。子どもたちの自主・自立を強く促していきたいと考えたからです。また、ホームステイも視野に入れ、いずれはお互いに交流しあえる関係にしていけるようにしていきたいとも考えています。

なぎさで育った子どもたちが、その柔らかい心で様々なことを感じ取り、たった3日の滞在を機に成長する姿を見ると、これからも、少なからず子どもたちの心の成長につながるツアーにしていきたい、工夫していきたい、私たちも一緒に成長したいと改めて思っています。